

[東郷町住民意向調査報告書]

※ 自治基本条例に係る問いのみを掲載

平成 27 年度に第 5 次東郷町総合計画（計画期間：平成 23 年度から 10 年間）の中間年度にあたることから、これまでの基本施策や目標指標の進捗及び成果を検証するためにアンケート調査を実施。

- ・ 調査地域 . . . 東郷町全域
- ・ 調査対象者 . . . 東郷町に在住する 18 歳以上の男女
- ・ 調査対象者数 . . . 2, 000 人
- ・ 調査期間 . . . 平成 27 年 7 月 23 日から 8 月 5 日まで
- ・ 調査方法 . . . 郵送配布、郵送回収
- ・ 調査票の回収状況 . . . 771 件（38.6%）

I 東郷町自治基本条例について

問1 あなたは東郷町自治基本条例をご存知ですか？
最も近い番号を1つだけ選んでください。

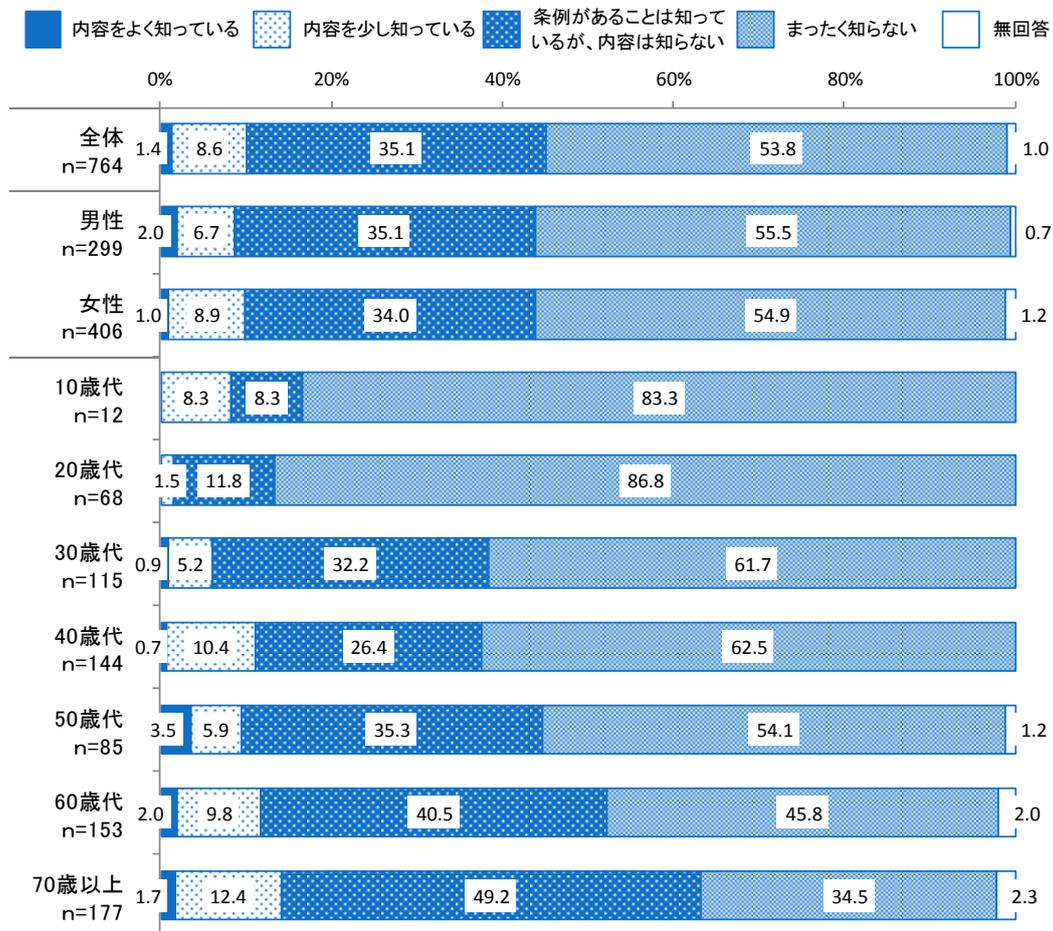
◆ “知っている”が45.1%、「まったく知らない」が53.8%

東郷町自治基本条例の認知については、「内容をよく知っている」(1.4%)、「内容を少し知っている」(8.6%)、「条例があることは知っているが、内容は知らない」(35.1%)をあわせた“知っている”が45.1%となっている。また、「まったく知らない」は53.8%となっている。

性別でみると、性別による大きな差はみられない。

年齢別でみると、おおむね年齢が高くなるにつれて「まったく知らない」割合が減少し、70歳以上(34.5%)が10歳代(83.3%)よりも48.8ポイント低くなっている。

図表 東郷町自治基本条例の認知（全体・性・年齢別）



問2 東郷町自治条例をどのような機会で見ましたか？（複数回答可）

（※問8で「1. パンフレット」または「2. 広報」と回答した方に）

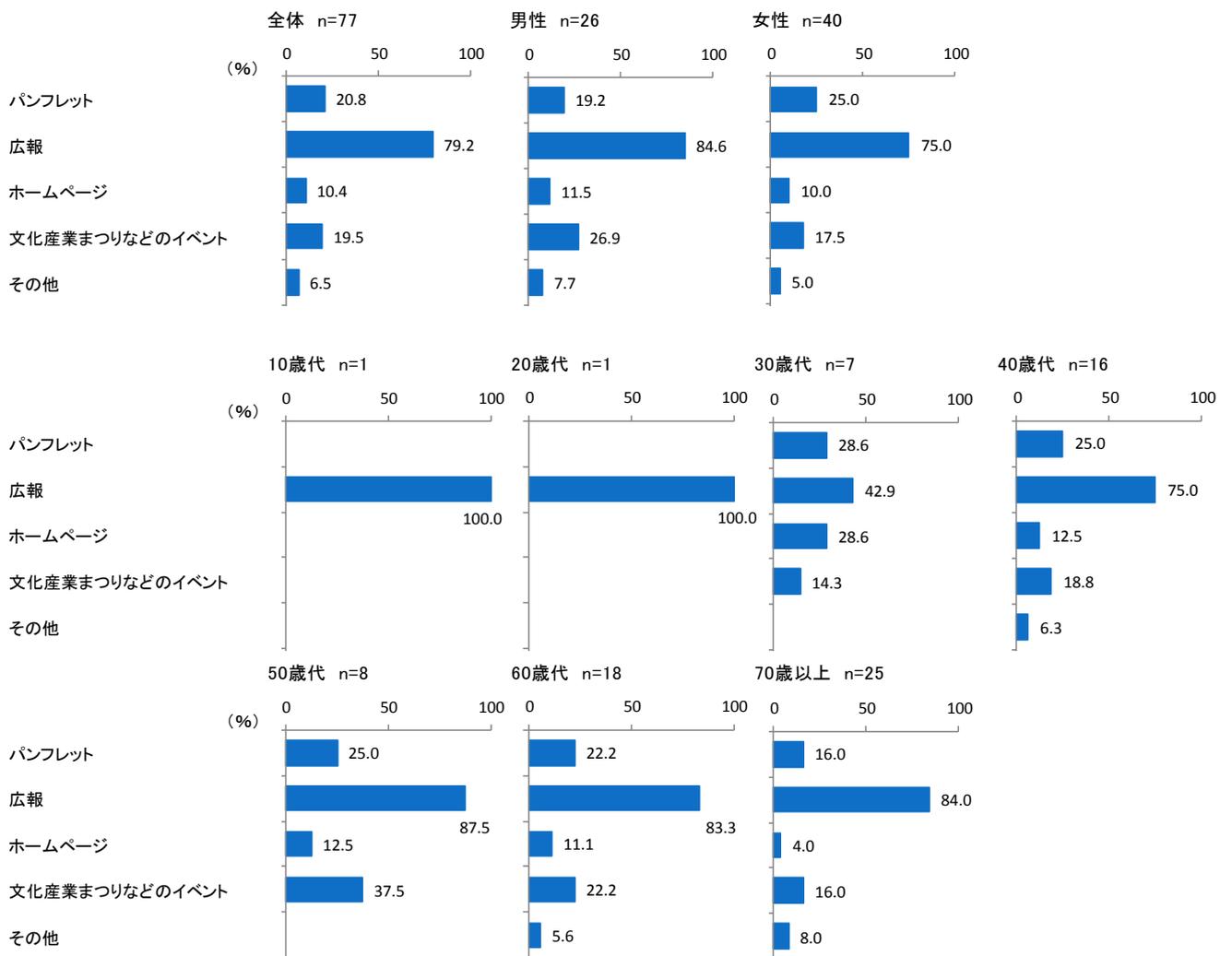
◆ 自治条例の認知の機会が「広報」が79.2%

東郷町自治条例の認知の機会が「広報」が79.2%で最も割合が高くなっている。

性別で見ると、性別による大きな差はみられない。

年齢別で見ると「広報」以外では、30歳代で「パンフレット」と「ホームページ」（ともに28.6%）、50歳代では「文化産業まつりなどのイベント」（37.5%）などの割合が高くなっている。

図表 東郷町自治条例の認知の機会（全体・性・年齢別）



II 住民参画・協働について

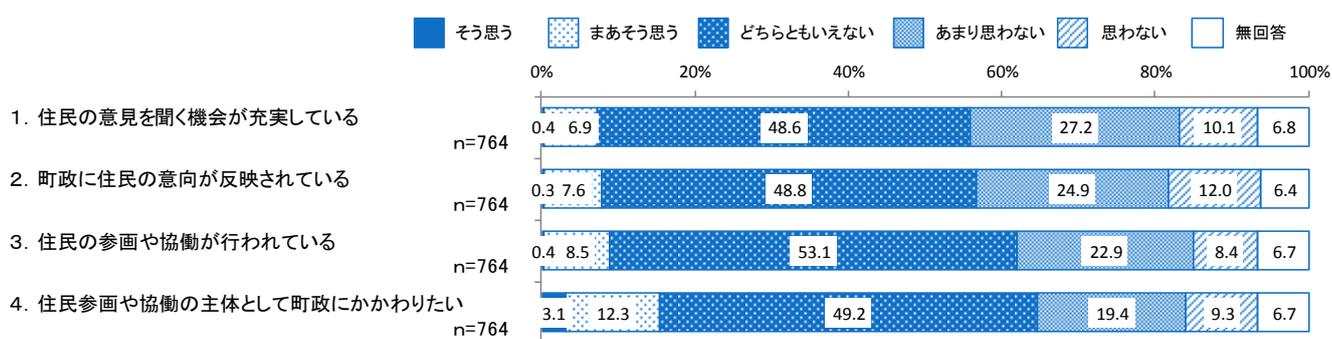
問1 町政への住民意見の反映や住民参画、住民と行政との協働について、どのようにお考えですか。

今のお気持ちに最も近い番号を1つずつ選んでください。

◆ 「住民参画や協働の主体として町政にかかわりたい」と“思う”が15.4%

住民参画・協働について、「そう思う」と「まあそう思う」をあわせた“思う”の割合をみると、「住民参画や協働の主体として町政にかかわりたい」が15.4%で最も高くなっている。一方、「思わない」と「あまり思わない」をあわせた“思わない”割合は、「住民の意見を聞く機会が充実している」(37.3%)、「町政に住民の意向が反映されている」(36.9%)、「住民の参画や協働が行われている」(31.3%)が3割以上となっている。また、どの項目においても「どちらともいえない」が最も高い割合を示している。

図表 住民参画・協働（全体）

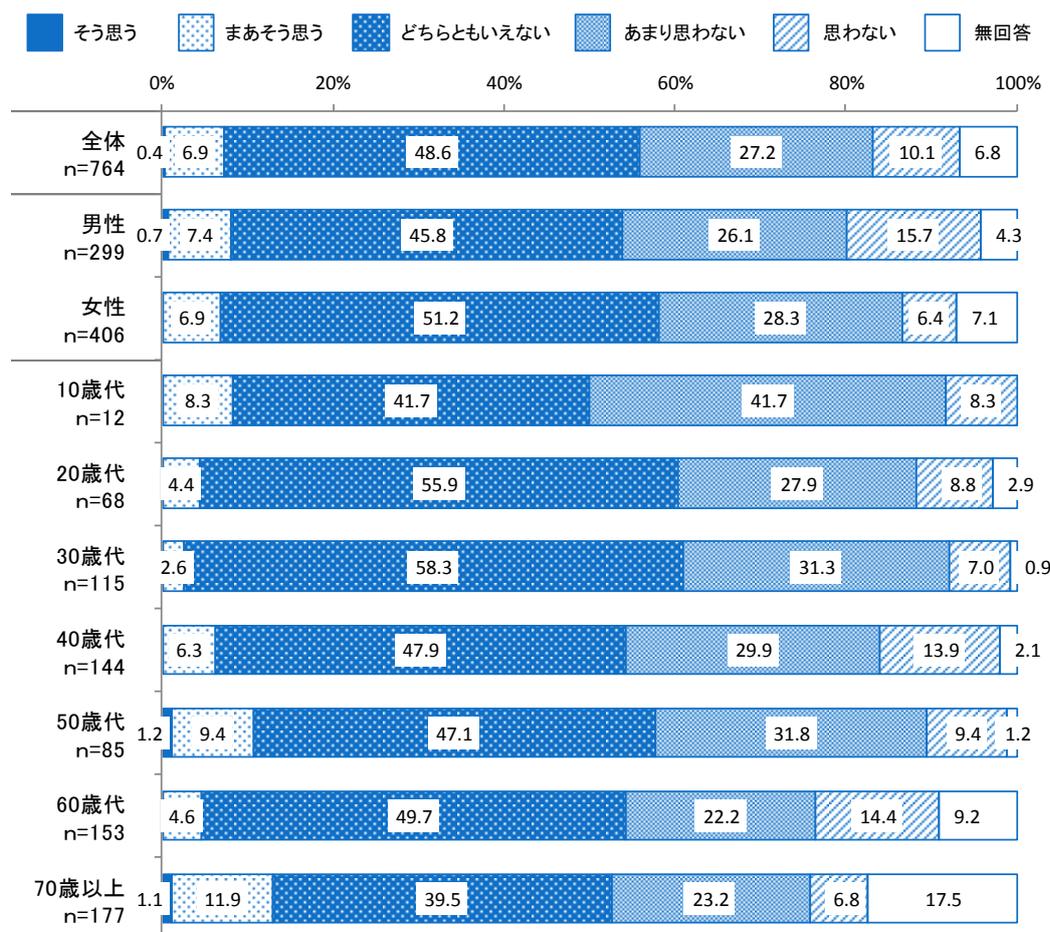


(1) 住民意見を聞く機会が充実している

住民意見を聞く機会が充実していると“思う”を性別で見ると、男性が8.1%、女性が6.9%と1割にも満たない。一方、“思わない”は男性（41.8%）が女性（34.7%）よりも7.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、住民意見を聞く機会が充実していると“思わない”は、10歳代（50.0%）が最も高く、40歳代（43.8%）、50歳代（41.2%）と続いている。

図表 住民意見を聞く機会が充実している（全体・性・年齢別）

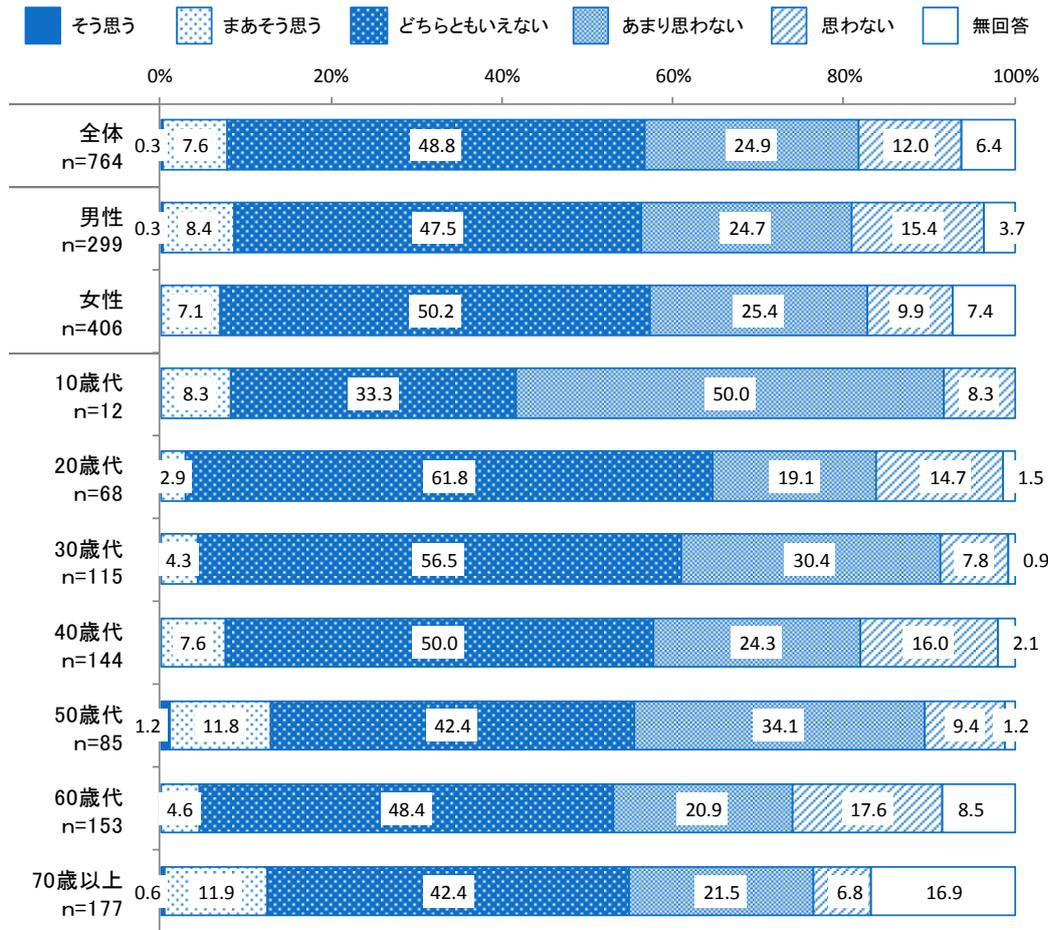


(2) 町政に住民の意向が反映されている

町政に住民の意向が反映されていると“思う”を性別で見ると、男性が8.7%、女性が7.1%と1割にも満たない。一方、“思わない”は男性（40.1%）が女性（35.3%）よりも4.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、町政に住民の意向が反映されていると“思わない”は、10歳代（58.3%）が最も高く、50歳代（43.5%）、40歳代（40.3%）と続いている。

図表 町政に住民の意向が反映されている（全体・性・年齢別）

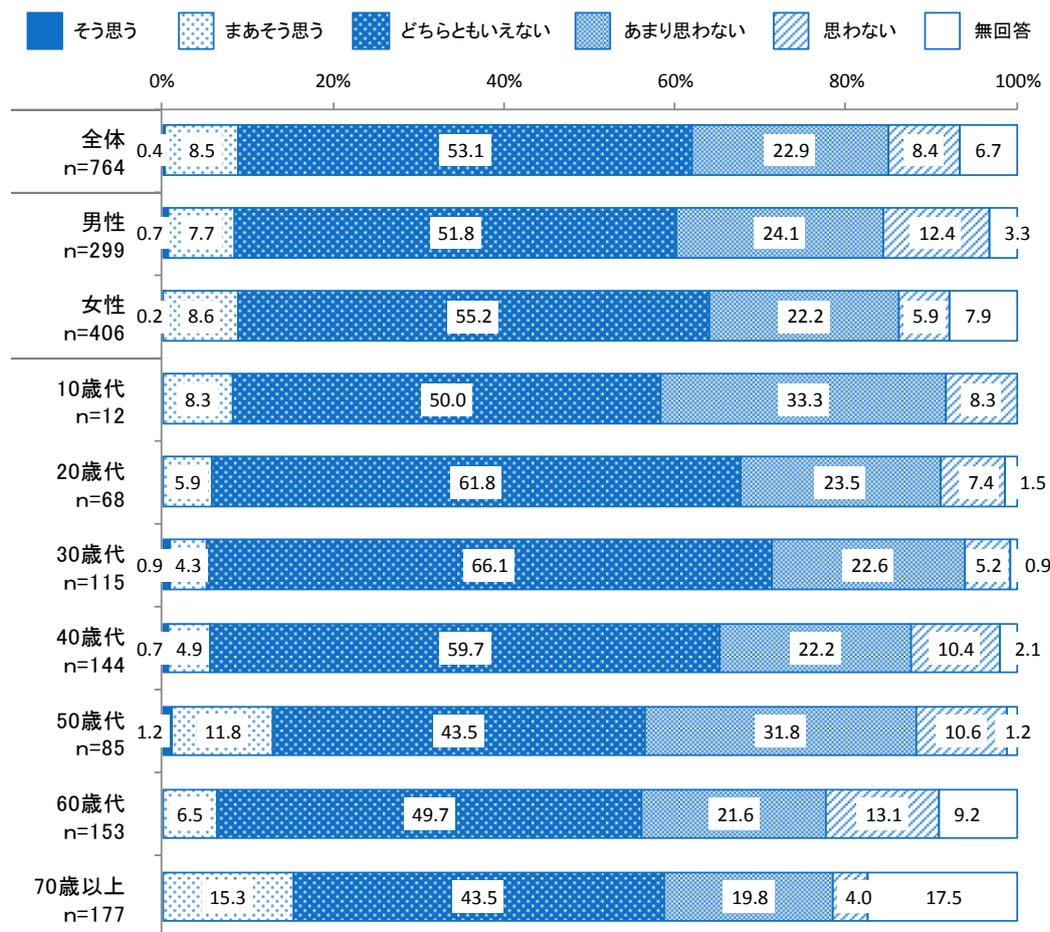


(3) 住民の参画や協働が行われている

住民の参画や協働が行われていると“思う”を性別で見ると、男性が 8.4%、女性が 8.8%と 1 割にも満たない。一方、“思わない”は男性（36.5%）が女性（28.1%）よりも 8.4 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、住民の参画や協働が行われていると“思わない”は、50 歳代（42.4%）が最も高く、10 歳代（41.6%）、60 歳代（34.7%）と続いている。

図表 住民の参画や協働が行われている（全体・性・年齢別）

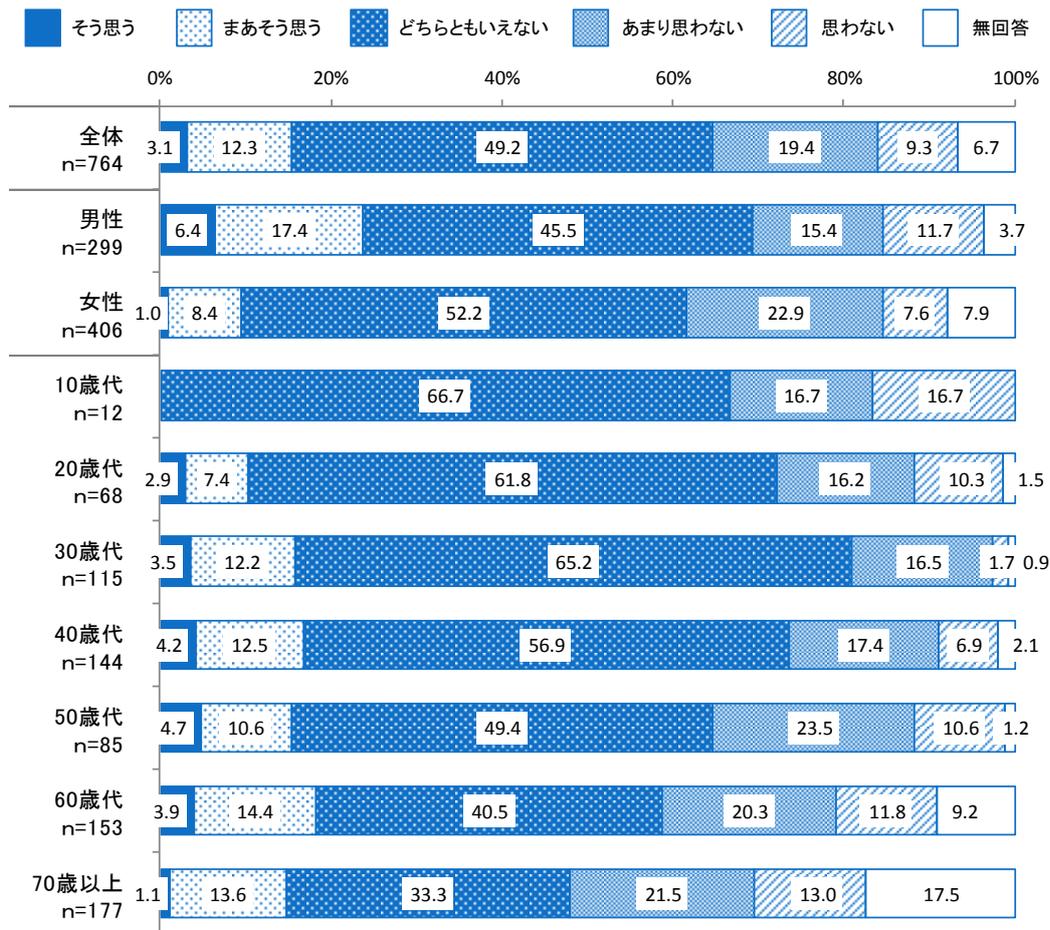


(4) 住民参画や協働の主体として町政にかかわりたい

住民参画や協働の主体として町政にかかわりたい“思う”を性別でみると、男性(23.8%)が女性(9.4%)よりも14.4ポイント高くなっている。

年齢別でみると、住民参画や協働の主体として町政にかかわりたいと“思わない”は、70歳以上(34.5%)が最も高く、50歳代(34.1%)、10歳代(33.4%)と続いている。

図表 住民参画や協働の主体として町政にかかわりたい(全体・性・年齢別)



問 今後、住民の皆さんが積極的にかかわって進めることが重要だと思う活動は何ですか？
 今のお気持ちに最も近い番号を3つ以内で選んでください。

◆ 重要だと思う活動は“地域安全活動”、“リサイクル活動”、“福祉活動”

積極的にかかわって進めることが重要だと思う活動は「防災・防犯・交通安全などの地域の安全活動」が54.7%で最も割合が高く、「ごみの減量やリサイクル活動」(37.2%)、「高齢者の手助けなど自分でできる範囲の福祉活動」(35.9%)が続いている。

性別で見ると、「防災・防犯・交通安全などの地域の安全活動」以外では、男性は「身近な道路や排水路、公園などの清掃活動」(37.5%)、女性は「高齢者の手助けなど自分でできる範囲の福祉活動」(39.7%)で割合が高くなっている。

年齢別で見ると「防災・防犯・交通安全などの地域の安全活動」以外では、30歳代で「公園など身近な公共施設の内容の検討」(48.7%)、20歳代、40歳代で「身近な道路や排水路、公園などの清掃活動」(35.3%、34.7%)、50歳代、60歳代で「高齢者の手助けなど自分でできる範囲の福祉活動」(38.8%、45.1%)などの割合が高くなっている。

図表 積極的にかかわって進めることが重要だと思う活動（全体・性・年齢別）

